

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 三重大学教育学部附属中学校 (※正式名称を記載)

種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}

中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校

教員養成大学 専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例：小中高一貫)

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒514-0062

三重県津市観音寺町471

E-mail webmaster@fuzoku.edu.mie-u.ac.jp

Website http://www.fuzoku.edu.mie-u.ac.jp

幼児児童生徒数 男子 211 名 女子 220 名 合計 431 名

幼児・児童・生徒の年齢 13 歳～ 15 歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

別紙 「活動の概要」を参照

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

○避難所情報伝達キット「つたわるキット」 (三重県国際交流財団)
○プラダン間仕切りセット (市販のもの)
○災害時にも役立つポリ袋での米の炊き方 (赤十字社大阪府支部)

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本年度は、「防災教育」をテーマに年間の指導計画を作成した。総合的な学習の時間を活用した、全校生徒対象の授業（講演やワークショップ等）と家庭科の授業を連携させる指導計画とした。（活動の概要参照）
家庭科では、東日本大震災以来、自分たちの暮らしと災害時の対応をつなげ、いざという時に動ける中学生をめざす姿として、指導を継続している。一方、生徒の中には、自主的な学習活動として、防災について研究を重ねてきた者もあり、この生徒らは防災に対する意識も高い。
意識の高い生徒をリーダーとして、講演やワークショップの場を設定することで、やらされる学習ではなく自ら考え、備える学習が、全校に広がりを見せることをねらった。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- ・校務分掌に「ユネスコ ESD」担当を位置づけ、担当者から年度初めに今年度の取り組みについて、提案している。
- ・特別な取り組みを実施することは、負担となり継続しないため、普段の授業の中に ESD の視点を取り入れる工夫をしている。
- ・「エネルギー・環境」関連の研究を行っている大学の先生と共同研究という形で協力を継続している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

- ・年度末に行う「学校自己評価」の中に、「特色ある学校作り」という項目を設け、そこで評価をおこなっている。
- ・ユネスコスクールとしての活動は不十分であるが、今年度は国際交流財団との交流が実施できたことが成果である。昨年度まで本校では「FCS（附中チャレンジスクール）」という活動があり、生徒有志が各自で設定したテーマに沿って研究を深め、1年をかけてまとめたものを校内や大学で発信するという活動で大きな成果を残してきた。しかし、他の教育活動との兼ね合いから様々な問題もあり、昨年度をもってFCSの活動を終了したため、本年度は新たなスタイルを模索する初年度となった。今後の課題は、平時の授業や生徒会の活動部等を活用した取り組み方法を検討していくことである。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

推進拠点校としての取り組みは、十分とは言えず、今後の課題である。現在は、中部電力が企画する「エネルギー環境教育」の研究・実践に多くの教師が参加し、各自の授業実践を成果報告として発表している。この成果報告は、「エネルギー環境教育成果報告書」としてまとめられ、発信されている。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

主に三重大学と連携しての活動である。大学で行われるユネスコ・ESDの発表会に参加している他、大学に在籍する留学生との交流を企画し、国際理解教育、異文化理解の取り組みを実践している。また、本年度は新たに「三重県国際交流財団」と連携した取り組みを初めて実施した。今後も発展的に継続していきたい。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

平成 30 年度の計画については、未定である。
4 月に新年度の体制が決定した後、担当者より提案される予定である。